

北賀隠士春求信精と署することがある。元文五年十二月十二日歿した。著書に松梅語園・群書探源がある。

**イタガタニ** 板ヶ谷 イタガ タン 河北郡湯涌郷に屬する部落。

**イタガタニガハ** 板谷川 ↓アサノガハ 淺野川。

**イタゴリントウ** 板五輪塔 (一)一閑院―石川郡鶴來舊一閑院境内に置かれてあるが、手取河原から出たものといふ。高さ四〇〇樞・厚さ六樞、幅最下で三〇樞の舟底形をなす石材の表面に、五輪が刻せられて居り、その水輪には梵字が陰刻せられるが、年號等は無い。室町末期のものであらう。

(二)怡岩院―鹿島郡三引の怡岩院にも三基の板五輪塔がある。その一は、丈四〇樞。五輪の輪廓だけを陰刻し、中央に五大種子と道普禪定門、左右に天正□子□□六日と刻する。その二は、丈五〇樞。頭部三角形をなし、中央に小五輪塔を陽刻する。その三は、丈五〇樞、全面に五輪を陽刻し、水輪に金剛界大日種子を陰刻する。

**イタサカイチエモン** 板坂市右衛門 初め丹羽長重に仕へたが、慶長六年前田利長に來仕し、大坂再役に二丸で首一つを獲、祿途に八百石に至り、會所奉行・御馬廻頭兼會所奉行に歴任し、寛永十四年歿。子孫藩に世襲した。

**イタダキ** 頂き 河北郡大根布・荒屋等から金澤に行商する漁婦で、魚桶を頭に載せて運搬するものをいうたが、明治中期から此の風が絶滅した。  
**イタツウチ** 板津氏 尊卑分脈に、林加賀

介成家の子板津介成景。その子板津三郎景高。その子同小三郎家景は承久三年家綱の爲に討たれた。又家景の弟に景定・景朝がある。成景は能美郡板津郷に居たのであらう。

**イタツゴウ** 板津郷 能美郡に屬し、藩政時代では梯御館・上牧・下牧・鶴ヶ島・中野・鍛冶・小島・長崎・坊丸・大島・高坂・根上・山口・釜屋・吉原釜屋・福島・濁池・濱・濱開・下・江・犬丸・松梨・蛭川・中・江・高堂・高堂新・寺井・東任田・西任田・五間堂・中・庄・福岡・二口・野・重住・印内・赤井・吉原・湊・朝日・向河原・久五郎島・橋・橋新・下栗生の四十五ヶ村を含んでゐた。外に小松町を板津郷であるとする説もある。

**イタツシヨウテキ** 板津正的 通稱巽一、又は不守一、盲人にして檢校となつた。國學に通じ、連歌を協出直賢に學び、前田利常に仕へて十人扶持を受け、綱紀の幼時より之に近侍し、寛文八年九月その武運長久を祈るため、白山比咩神社に獨吟百韻の連歌を献つた。著す所に正的筆記一卷がある。延寶七年歿。

**イタツリヨウホ** 板津了甫 板津氏は加賀土着の者で、元祖了甫は前田利長に召出され、三子があつた。長男左兵衛は三百石を受けたが、その曾孫喜市郎は元禄中幼少相續で三の一中に早世して断絶した。二男八兵衛は四百石を賜はつたが、これもその曾孫龜之助の時、享保十七年三の一相續中に早世して断絶した。三男は盲目で板津正的といひ、延寶七年歿した。正的に子なく、本多政長の家士某の次男左衛門遺跡を受けたが、享保十一年亦断絶した。

**イタノタンヤマ** 板ノ丹山 鳳至郡福又の東南に在る山。高さ二六九米。山體輝石安山岩。

**イタバシテイ** 板橋邸 ↓ヒラヲテイ 平尾邸。

**イタビ** 板碑 縣下に於いて發見せられた板碑式石卒都婆は左の通りである。

(一)小原の板碑―石川郡小原地内薬師寺址に在つたが、今鶴來の民家に移されてゐる。高さ五六樞一、上幅一五樞、下幅一八樞、厚さ一〇樞乃至一三樞。三角頂の下に二線を劃し、その下部稍低く、中央圓相内に金剛界大日の種子を刻したばかりで、銘文等は無い。加賀に在つてはこの一基の外未だ發見せられぬ。

(二)中段の板碑―鳳至郡中段小字仁王堂なる古寺址の阿彌陀堂と稱する所に存する。碑身の高さ一〇九樞、厚さ四五樞、幅三〇樞乃至三三樞の綠泥片板岩で、その三角頂の下に二線を劃し、彌陀三尊の種子を刻した下部中央に正應元年二月の文字はあるが、造立趣旨などは書いてない。

(三)明千寺の板碑―鳳至郡明千寺なる明泉寺の庫裡附近に在る。表面五輪塔婆二個を浮彫として並べ、その水輪中に合掌した佛體各一を表す。總高九七樞、下幅五七樞、上幅五三樞、厚一二樞、上部三角形で文字はない。

(四)明千寺の板碑―同明泉寺の南小字ウワダジの叢中に同大の二基が並立する。高さ一一五樞、上部幅厚共に二六樞の方錐形。頭部と身部の界に二條の幅三樞弱の溝が四方を繞り、それより少し下つて圓相中に金剛界大日の種子が彫つてある。銘文はない。

(五)明千寺の板碑―前記の右に並んでゐる。

高さ一〇〇樞、幅四〇樞、厚さ一五樞の牛舌形で、頭部と身部の界を高くし、その下の圓相中に金剛界大日の種子を刻する。銘文はない。

(六)前波の板碑―鳳至郡前波なる洞光寺に存する。高さ一八五樞、下部幅八九樞、上部幅六九樞、厚さ一五樞、頭部三角形。表面中央圓相中に彌陀の種子、その下に二個の圓相があつて觀音と勢子の種子を刻する。銘文はもと有つたやうに見える。

(七)前波の板碑―前記のもの、左に並ぶ。高さ一三八樞、下幅八〇樞、上幅六九樞、厚さ一三樞。中央上部圓相内に不動の種子を刻する。

(八)前波の板碑―更に前記のもの、左に並ぶ。長さ一〇九樞、下幅五六樞、上幅四一樞、厚さ一五樞。上部中央に圓相はあるが、種子も銘記もない。

**イタヘキブギョウ** 板批奉行 屋根板の製造保管に關する奉行である。寛文元年小倉彦次郎・佐竹儀兵衛の命ぜられたのがその始らしい。兩人の死後、元禄二年二月吉見彌次右衛門・横地兵右衛門が命ぜられ、以後兩人充連綿したが、寶曆十三年六月廢せられた。

**イタマハマチ** 板前町 金澤の町名。天神町の裏地で、もと藩の板前の者の邸地であつた故の名である。

**イタマヘモノ** 板前者 俎板前の略稱で、藩では臺所奉行に屬する料理人の下役であつた。菅君雜錄に、『元禄十四年六月四日御臺所御料理人七人扶持之者五人、三十俵宛に被仰付。且又唯今迄板前者者定番足輕に被仰付、百六十目に而動來候小人板前を相勤め、名目